

日本成長戦略会議 人材育成分科会第2回に関する意見

2026年2月26日

青山学院大学法学部 教授 佐藤綾野

所用により今会議に出席がかなわず誠に申し訳ございません。大学教員の立場から下記のとおり意見を申し述べます。ご提供いただいた説明資料は、2040年の就業構造の変化や労働需給ミスマッチを踏まえ、産学連携によるリスクリングと専門学校の役割強化を軸に整理されており、方向性としては極めて妥当であると考えます。

(1) リスクリングと大学院の利活用

- 多くの OECD 諸国では、成人後に大学院へ進学(=リスクリング)し、学位取得を契機に転職・昇給する経路が一般的で、リスクリングが年取や職位向上に直結する構造がある。一方、日本では長期雇用を前提とし、外部で取得した学位や資格が賃金やポストに直結しにくい傾向がある。転職市場でも学修歴より職務経験が重視されやすい。また海外の大学院は、アルムナイ・ネットワークを基盤とした人材交流の場としても機能し、ビジネス機会の創出に寄与している。
- リスクリングは、大学のプログラム設計、企業の人事評価制度、従業員のキャリア意識がかみ合っ初めて機能する。三者の連携と相互理解を前提とした制度設計が求められる。そのため例えば、企業の人事評価制度に「一定以上の管理職ポストは MBA あるいはそれと同等の能力を要件にする、少なくとも加点要素にする」などといった制度的な設計が考えられる

(2) 専門学校と地方私大の役割分担

- エssenシャル分野を支える人材不足が懸念される中、担い手として専門学校および地方私立大学は重要な役割を果たし得る
- 専門学校の役割は、職業直結型教育を通じて、高度技能を備えた現場中核人材を育成することである。特に、地元就職率・定着率の高さという特性を活かし、地域の基盤産業を支える「即戦力かつ高度化可能な人材」を育てる拠点となることが期待される。
- 地方私立大学の役割は、専門分野の基礎理論に加え、マネジメント能力を備えた人材を育成することである。地域企業の経営高度化や新規事業創出、組織運営を担う中核層の育成拠点として機能し得る。同時に専門学校の役割を補完する形で、エssenシャル分野を支える人材層を育成することが重要である。そのためには、専門学校と地方私立大学の連携（編入制度の柔軟化・共同プログラム開発等）も視野に入れた制度設計が求められる。